



伝統芸能を体験

市民文化会館小ホールで、9月23日に「前橋こども芸能座」が行われました。伝統文化の継承と発展のため市文化協会で行っている「ふれあい体験事業」に参加した子どもたちを中心に、日本の伝統芸能が発表されました。

本番さながらの訓練を実施

大規模地震などに備える総合防災訓練を、10月4日にグリーンドーム前橋・利根川河川敷駐車場で実施。自主防災会や多くの関係機関など580人以上が参加し、本番さながらのさまざまな訓練に取り組み、防災に対する意識を高めました。



木立の中に美しい調べ

10月4日、マンドリン・ミニコンサートを前橋文学館近くの広場で開催。25日・26日に行われる朔太郎音楽祭に先立ち、美しいハーモニイがキンモクセイの香りに乗り、木立の中に響いていました。



新鮮な農産物求め多くの入



日々の思いを携帯電話につづる



詩部門で県高校生文学賞
奈良 瑞希さん・17歳
上増田町

第3回県高校生文学賞詩部門で、116点の応募の中から最高賞である文学賞に選ばれ、12月に行われる全国高校生文芸コンクールに県代表として出品される。

「自分が受賞するとは思わなかった。賞を取ると学校の礼拝堂のステージに上られるんです。とてもうれしいです」

母親が大学の図書館で司書をしている。その影響もあってか、幼いころから本と触れ合う機会が多く、気付いた時には詩を書いていた。

「自分は口下手。だから、文字の方が表現しやすく、相手に気持ちも伝わるんです。だから詩を作ることが趣味になっています」

受賞した作品名は「いいわけ」。人が思いを言葉にして、他人に告げる

瞬間の気持ちをにつづった詩だ。

「以前は日々の思い付いたこと、感じたことなどをノートに書いていましたが、今は携帯電話。その都度携帯に思いを保存し、後でパソコンに入力しています」

この詩人は、現在、共愛学園高3年。8月に本県で行われたぐんま総文では短歌部門のリーダーとしてみんなをまとめた。得意な科目は数学。家にいるときは愛犬「ちゃい」と遊ぶことが好きという。

「動物が大好きなんです。大学へ進学して、将来は動物とかかわることができる仕事に就ければいいなと思っています」

明るい笑顔で元気に語る。残り少ない高校生活を楽しみ、その強い感受性を生かして頑張っていきたい。

若い芽のポエム

昨年度行われた第11回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

★入選 二宮金次郎

駒形小5年
細井 翔太さん

二宮金次郎は何年も何年も本を読んでいる。

もう何年読んだのだろう。

今はどんな本を読んでいるのだろう。

次はどんな本を読むだろう。

あと何年読むだろう。

★入選 お母さん

粕川小3年
和田 みずきさん

わたしの、お母さんは、わたしをうんでくれた。

うれしかった。

お母さんは、じかんをかけて、わたしをうんでくれた。

お母さんは、

「くるしかったよ。」と言った。

お母さんは、わたしがうまれたとき

「よかった。」と言った。

わたしは、お母さんに、うんでもらって、うんとうれしい。

★入選 雑草

東京都小金井市立緑小5年
中島 綾美さん

ただざわざわとそこにいて
せき込むかのような
意味のない音を出しているもの
そして常に
こざり合いをやっているもの
それが雑草

あなたたちの心は貪しい
いつも隣を意識して
気に入った人を見つけたら
一生懸命ついてきて
でも最後にはほとんどが
ボロボロになって捨てられる

さあ立ち上がれ雑草よ
おまえたちの心のどこかが
自由を求めて泣いているはずだ
君たちの心の中にも
以前は泉があつたはずだ
その泉を枯れさせてはいけない
まだ枯れていなければ
きっと何かが分かるはずだ
心からわき出て
体中にしみ通ってゆく
月光のような静かな強さが